


市長のタウンミーティング 下中島地区

(敬称略)

	<p>開催日時 平成29年11月2日(金) 19:00～21:00 会場 下中島公民館 参加人数 33名</p> <p style="margin-top: 20px;">開会挨拶 下中島地域振興会長 松原 勇 書記 石坂友宏</p>
---	--

市政への提案、意見

番号	地区名	項目	内容
1	下中島	教育環境	特色のある統合小学校として、他地区からでも人が来るような教育をしてほしい。
2	下中島	その他	自然増対策、社会増対策は、どこの市町村でもやっており、魚津が増えたら他が減るのではないかと思う。日本全国の問題である。少子化の根本的な問題として、今の若い人は彼氏彼女を作るのが下手なのではないか。男と女が一緒になるような何かをしないと日本はダメになると思う。
3	下中島	その他	派遣社員が増え、男は自分の将来に自信が持てないので結婚できない。女も相手が派遣だと遠慮する。出会うんぬんよりもまず生活の自立できないと結婚に結び付かない。大企業は内部留保を貯めこんで、社員や下請けや孫請けには全然お金が回っていない。そこを日本中で解決しない限りは、いくら出会いを求めても出会いで終わって結婚まではいかないと思う。魚津でも派遣の割合が何%でそれを何%に持っていかるとか、魚津に来たら正社員になりやすい、将来安定して生活できるという企業を増やせば若い人も来るのではないかと思う。
4	下中島	子育て	産科クリニックの公約があり、労災病院のところでも少しずつ進んでいると聞いているが、市内の他のクリニックと競合しないか心配である。
5	下中島	子育て	公約に掲げていた産科クリニックはいつ頃できるのか
6	下中島	子育て	産前産後のケアが不十分なのではないか
7	下中島	子育て	こぼと児童センターがなくなると、西の方に児童センターが全然なくなってしまい、滑川にできた児童館に行っている。この状況をどう思うか。
8	下中島	まちづくり	ミラージュランドの冬場の利用が少ないので何か工夫してできないか。
9	下中島	まちづくり	桃山で植樹祭が行われたが、この後どう整備されるか、例えば頼成山のように整備する予定はあるのか。
10	下中島	まちづくり	若者の働き口の確保のために企業の数が絶対的に必要。企業誘致には土地の問題があるのが現実だが、それでも企業を誘致しないとイケない。それについての考えを伺いたい。
11	下中島	まちづくり	魚津市の人口の推移の話では、下中島だけ増えて、他は減った。何が違うか考えると、団地ができたのと、他の地区よりも大家族、親が近くにいる家が多いのが要因ではないかと思った。

その他に3件のご意見あり

平成29年度 市長のタウンミーティング実施報告書

地区名	下中島地区	日時	11月2日(金) 19時00分より 21時00分まで		参加者数	33名
会場名	下中島公民館	司会	企画政策課 上田 哲也	書記	企画政策課 石坂 友宏	
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画総務部長 川岸 勇一 企画政策課長 赤坂 光俊 ほか		地区からの 主な参加者	地域振興会長、公民館、教育振興会、区長など		

1. あいさつ

地域振興会長 松原 勇

2. 市長談話

市長 村椿 晃

魚津市の現状、「子育て」「教育環境」「まちづくり」について

- うおづのうまい水 モンドセレクション最高金賞受賞
- 「第48回衆議院議員選挙の投票率」について
- たてもんの森 文化の継承
- 人口について
 - ・住み良さランキング（東洋経済新報社）について
 - ・魚津市の現状・将来予想
- 子育て支援について
 - ・安心して産み育てる環境の整備
 - ・仕事と家庭の両立等
 - ・経済的負担の軽減
- 教育環境について
 - ・小学校英語教育の推進
 - ・教育用ICT環境整備
 - ・通学の安全、安心対策
 - ・ふるさと教育
- まちづくりについて
 - ・定住、空家対策
- 災害に強いまちづくりについて
 - ・津波のハザードマップについて
- 健康寿命の延伸について
 - ・魚津市民の健康（がん死亡率等）

3. 意見交換（地区からの振興策等の提言・提案等について）

○統合校について（教育環境）

市長からYKKとのふるさと教育の話があり、下中島地区出身だなと思った。特色のある統合小学校として、他地区からでも人が来るような教育をしてほしい。

（村椿市長）

応援演説とお聞きしました。実現に向けて頑張っていきますが、特色ある教育をしようとする時の課題として学校の授業時間数の問題があります。授業時数は決まっています、その中でどうやって組むか。せつかく統合するのでどういう特色を打ち出していかは教育委員会でも一生懸命考えている。地域の方にもこういう協力ができるよというような声をだしていただきたい。地域と一緒に学ぶ学校を作っていきたい。

○人口減対策について①（まちづくり）

自然増対策、社会増対策は、どこの市町村でもやっており、魚津が増えたら他が減るのではないかと思う。日本全国の問題である。少子化の根本的な問題として、今の若い人は彼氏彼女を作るのが下手なのではないか。子供を産むにしても、誰かを好きになって一緒にならないとできない。行政が支援するのもどうかという気もするが、男と女が一緒になるような何かをしないと日本はダメになると思う。

（村椿市長）

今の話は少子化の根本の話だと思う。フランスを例にとりて話をすると、20年ほど前、出生率1.4だったのが現在2.0を超えている。日本は現在1.4ぐらいである。

フランス政府の調査によると、高学歴の女性は仕事を優先したいという結果だった。結婚しても育児の負担は自分。学歴を生かせない。日本も同じような状況があると思う。そこで、フランス政府は国を挙げて男性を家庭に帰して育児ができるような政策を実施した。

具体的には、子どもが生まれたら2週間育児休暇を取らせて、その分の給与は自治体や国が負担する。男女とも3年間育児休業の所得の7割を保証する。そういった政策を実施して効果が出た。

これは魚津だけ、1つの地方自治体ではできないが、日本もそうになっていくと思う。誰かだけの負担で子どもを育てていく時代ではない。そうしないと増えない。

その上で、即効性のある対策として、男女の出会いの場をたくさん作るということもやらないといけないが、そうやっても女性にだけ負担が行くようなら子供の数は増えないと思っている。

○人口減対策について②（まちづくり）

自分たちが若いころはほぼ100%正社員だったが、やめる頃には派遣社員がすごく増えた。そうすると男は自分の将来に自信が持てないので結婚できない。女も相手が派遣だと遠慮する。出会うんぬんよりもまず生活の自立できないと結婚に結び付かない。結婚しないと子供も生まれぬ。根本はそこにあると思う。

小泉首相の時に製造業の派遣を認めた。今の総理が何年か勤めたら正社員にするという政策を打ち出したが、現実には進んでいないと思う。大企業は内部留保を貯めこんでいざという時に備えると言っているが、社員や下請けや孫請けには全然お金が回っていない。

そこを日本中で解決しない限りは、いくら出会いを求めても出会いで終わって結婚まではいかないと思う。魚津でも派遣の割合が何%でそれを何%に持っていくとか、魚津に来たら正社員になりやすい、将来安定して生活できるという企業を増やせば若い人も来るのではないかと思う。

(村椿市長)

ありがとうございます。おっしゃる点非常に大きいと思います。経産省の方でもワークシェアリングという言い方をしていますが、これまで1人が抱えていた仕事、残業も含めて、複数で分担するその代わり1人の取り分は減るかもしれないが、安定した仕事を大勢の仕事でやっていくという取り組みを提唱している。そんなに簡単には進まないと思うが、考え方としてはおっしゃるような方向に進んでいくと思います。

○産科クリニックについて（まちづくり）

市長に立候補したときに産科クリニックの公約があり、労災のところで少しずつ進んでいると聞いているが、市内の他のクリニックと競合しないか心配である。

(村椿市長)

魚津市で産科は、最盛期は8つあった。平成14年頃からやめるところが出てきて、平成18年に労災病院も分娩の取扱をやめたことで、魚津で産む場所がなくなりました。それから約11年間分娩できるところがありません。そういう意味で、産科クリニックを整備しても市内のクリニックとの競合はありません。

ただ、広い意味でのエリア、黒部市民病院、厚生連滑川、かみいち総合病院、入善町のあわのさんといったところとの関係は議論になっています。

滑川から朝日で年間1000件の分娩があり、そのうち550件が黒部市民、残り450件が先ほど挙げた滑川、かみいち、入善と富山市で出産されています。

滑川は年配の医師が1人と応援の医師のみで年間80件ぐらい扱っていて、魚津では年間100件程度の想定でスタートする予定であります。能力的には200でも300でもできるがすぐにそこまではいかないと思います。

リスクの高いお産の場合は、周産期医療の設備がある中核病院、新川なら黒部市民、富山市なら県立中央病院などが担い、魚津では通常分娩、予定帝王切開を対応できるように、と考えています。仕事の奪い合いみたいなことは起こらないが、役割分担は必要であります。

○子育て環境について（子育て）

公民館でやっている子育てサロンに来られるお母さんたちに、タウンミーティングで市長に伝えたいことがないかと聞いたところ

- ・公約に掲げておられた産科クリニックがいつ頃できるのかということ
- ・産前産後のケアが不十分なのではないかということ
- ・こぼと児童センターがなくなると、西の方に全然なくなってしまい、滑川にできた児童館に行っていること

といった話が出たので、それらについて聞かせてほしい。

(村椿市長)

産婦人科と産前産後ケア施設については、予定通りにいけば31年4月、1年半後にオープンさせたいと考えています。

産科クリニックの中心になっていただく中野先生は、元中央病院の産婦人科部長で、

日本母乳の会の会長でもあります。母乳育児や産後のお母さんのケアにとっても詳しく、そういった部分にも力を入れたいとおっしゃっています。一緒に頑張っていきたいと考えています。

未就学の子どもを連れていける施設が少ないのはおっしゃるとおりであります。

昨年度、プロジェクトチームの取組みで育児中の女性職員による発表でもそうした指摘があり、そのプランをどうやったら実現できるかを検討しています。

できればそのお母さんたちが集まる場に呼んでほしい。直接話をしてみたいと思います。

○ミラージュランドの冬場の利用について（まちづくり）

ミラージュランドの冬場の利用が少ないので何か工夫してできないか。

(村椿市長)

ミラージュランドは、冬場は天候に左右されてなかなか利用が見込めないということで現在のようになっているものと思います。

今、妙案があるわけではありませんが、どうすれば冬でも外出するかを考えた時に、例えば魚がおいしい時期だから、釣り堀とか魚を活かした施設ができないかなど、そういうことを検討するための官民連携の取組みを今年度から始めています。ミラージュランドや水族館の施設を市がどこまでやって、民間の知恵や資金を使って何かできないかということは今後考えていきます。

○桃山運動公園の今後の整備について（まちづくり）

桃山で植樹祭が行われたが、この後どう整備されるか、例えば頼成山のように整備する予定はあるのか。

(村椿市長)

桃山については、頼成山と事情が違います。頼成山は元々山だったところを県が植樹祭の為に切り開いて、その後に公園を作りました。今回の魚津市の植樹祭は、元々公園として出来上がっているところで植樹祭をしているので、新たに何かを整備する予定はありません。

ただ、両陛下が詠まれた歌の記念碑を作り、周りに植栽をして、お手植えのものを戻して思い出に残していくような取組はしていきます。

○若者の働き口について（まちづくり）

若者の働き口の確保のために企業の数が絶対的に必要。昔は魚津にそれなりの企業があったが、それに比べるとさびしくなっている気がする。企業誘致には土地の問題があるのが現実だが、それでも企業を誘致しないといけない。それについての考えを伺いたい。

(村椿市長)

大きな企業を誘致する時代ではありません。多様な働き場所をいくつも用意するのがよいと思っています。その一つがゲームソフトの開発会社であります。ただ、すぐに誘致するのは難しく、環境を整える必要があります。魚津出身のゲームソフト会社の社長さんにも協力いただいて、ゲーム開発のセミナーや合宿を開催することにしています。

魚津だけの規模では無理なので富山県全体に声かけをして、いろいろなところから若い人が参加します。技術を持った人が東京から教えに来ることになっています。そうい

う取組を繰り返すことで、若い人が魚津に出入りするようになります。そういうところから始めていきたいと思います。

○下中島地区の人口増、ICT教育等について（まちづくり・教育環境）

魚津市の人口の推移の話では、下中島だけ増えて、他は減った。何が違うか考えると、団地ができたのと、他の地区よりも大家族、親が近くにいる家が多いのが要因ではないかと思った。

それから、教育環境について、最初の方で男女の交流の場について質問があったが、小学校からの教育によって地元で根付くかどうかが大事。男女のくくりをもう少し意識させるような教育ができないか。大きくなってからいろいろやるよりも、小さいころからの教育が大事だと思う。

また、市長の話の中で、フランスの取組みについて紹介されたが、日本の場合、男性が家に帰ったから人口が増えるわけではなくて、核家族が増えて子供の世話をする家族がいなくて難しいのではないかと自分は思っている。

ICT環境整備について、試験的にやるのはいいが、富山県は全国的に学力が高いし、コミュニケーション能力を上げる教育に力を入れてほしい。

それと通学の安全対策について、見守り隊の人数が減っていると聞くと、それと事件事故の件数の因果関係はあるのか。

（村椿市長）

教育と結婚との関係はわからないので何とも言えません。フランスの話は出生率が改善した例として紹介した。他でいうとドイツでは給付、つまりお金を配るやり方をしたが、出生率は改善していません。教育で家族観を教えることは大事だと思います。

ICTの導入は成績と結びつけるのではなく、ICTという道具を使って考える力を高めることが大事であります。道具を使いこなせることが大事ではないのです。

見守りと事故の関係はわからないのでデータを確認してみます。